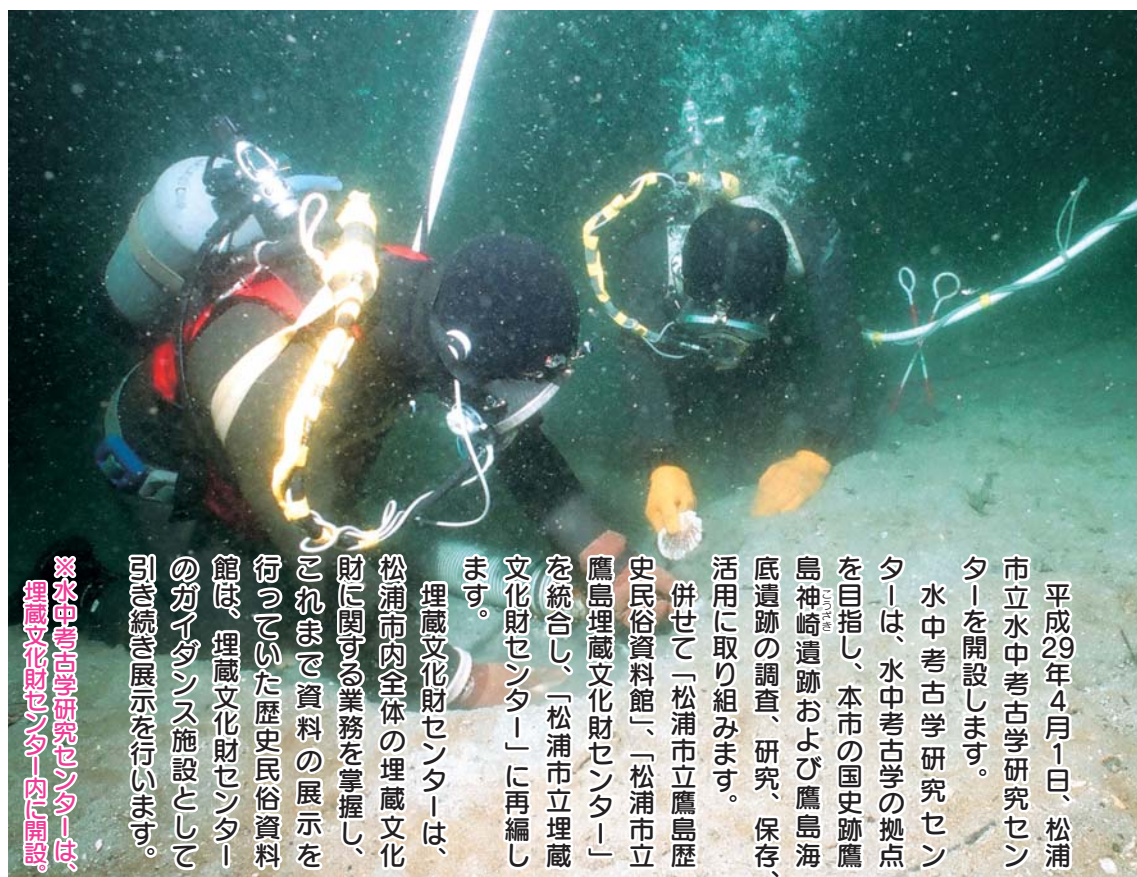


特集 水中考古学の拠点を目指して！

松浦市立水中考古学研究センターを開設します

問 文化財課文化財係 ☎内線356



平成29年4月1日、松浦市立水中考古学研究センターを開設します。

水中考古学研究センターは、水中考古学の拠点を目指し、本市の国史跡鷹島神崎遺跡および鷹島海底遺跡の調査、研究、保存、活用に取り組みます。

併せて「松浦市立鷹島歴史民俗資料館」、「松浦市立鷹島埋蔵文化財センター」を統合し、「松浦市立埋蔵文化財センター」に再編します。

埋蔵文化財センターは、松浦市内全体の埋蔵文化財に関する業務を掌握し、これまで資料の展示を行っていた歴史民俗資料館は、埋蔵文化財センターのガイダンス施設として引き続き展示を行います。

※水中考古学研究センターは、埋蔵文化財センター内に開設。

◆調査・研究のあゆみ

昭和55～57年度

・文部省科学研究費として初の水中考古学の学術調査（地層探査機の使用、潜水調査）を実施。
・陶磁器、石弾、碇石などが出土。

昭和58年度（床浪港改修工事に伴う緊急発掘調査）
・陶磁器類7点が出土。

昭和63年度（床浪港改修工事に伴う試掘調査）
・遺物の包含を確認。

平成元年度（床浪港改修工事に伴う緊急発掘調査）
・縄文土器、陶磁器、石弾、碇石、湖州鏡など469点の遺物が出土。

平成元～3年度（文部省科学研究費学術調査）
・サイド・スキャン・ソナーなどの音波探査機器による海底調査や海底出土遺物の化学処理に関する検討実施。

平成4～17年度（鷹島町神崎地区での潜水・目視調査）
・遺物の分布・埋没状況を確認。

平成6～7年度（神崎港改修工事に伴う緊急発掘調査）
・大型木製椀に碇石が装着された状態で発見。



工事に伴う緊急発掘調査
リーニング作業（平成6年）



▲床浪港改修工事に伴う緊急発掘調査
水中実測状況（平成元年）



▲床浪港遠景
（昭和58年）



▲『蒙古襲来絵詞（松浦本）』（松浦史料博物館蔵）

鷹島海底遺跡

鷹島海底遺跡は、鷹島の南岸地域に所在する蒙古襲来に関わる戦場跡です。モンゴル襲来（元寇）は、文永11年（1274）・弘安4年（1281）の二度にわたり元軍が日本に来襲し、鎌倉幕府滅亡の遠因となるなど、我が国の中世の政治・社会に多大な影響を与えた、日本史上著名な事件です。

鷹島沖は弘安の役の際に、元軍の船団が暴風雨により沈没した地点として伝えられており、島の南岸では、古くから地元漁師によって壺類や刀剣、礎石などが海底から引き揚げられていました。



▲鉄製青かぶこ



▲てつほう

- ・平成12～14年度（神崎港改修工事に伴う緊急発掘調査）
 - ・元寇に関する遺物が多く出土。
 - ・『蒙古襲来絵詞』に登場する「てつほう」の实物が出土。
- 平成17～22年度
 - （松浦市が事業主体の鷹島海底遺跡関連伊万里湾海底探査）
 - ・伊万里湾のうち松浦地域と佐賀県唐津市の一部を対象海域として海底地形・地質調査を実施。
- 平成18～22年度
 - （日本学術振興会科学研究費補助金学術調査）
 - ・音波探査などによる伊万里湾海底地形・地質調査を実施。その結果を基に海底の試掘調査を行い、木材（元の船の一部）を検出。
- 平成23～27年度
 - （日本学術振興会科学研究費補助金学術調査）
 - ・元の軍船の構造が分かる竜骨と外板が残る船底（鷹島1号沈没船）、一石型の笥の発見。
 - ・9枚の隔壁板により仕切られた2隻目の沈没船（鷹島2号沈没船）を確認。
- 平成25～30年度
 - （長崎県が事業主体の分布調査、音波探査）
 - ・床浪港沿岸の海底面における元寇遺物の分布調査を実施。
- 平成28年度から神崎沖の音波探査を実施。
- 平成27～31年度
 - （松浦市が事業主体の鷹島の海底調査および陸上関連遺跡の調査）
 - ・鷹島2号沈没船の全体像の確認。
 - ・鷹島海底遺跡および鷹島神崎遺跡内の音波探査や発掘調査、併せて陸上遺跡の確認調査を実施。



▲鷹島2号沈没船発掘風景（平成27年）



▲鷹島2号沈没船実測風景（平成27年）



▲神崎港改修工事に伴う緊急発掘調査エントリーするダイバー（平成12年）



▲神崎港改修3号椀のク